

令和7年度新宿区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

大久保第一保育園

新宿区大久保3-11-1

活動テーマ「自然の中で感じてみよう」

都立戸山公園に隣接していながら、土の園庭が2か所ある自然環境に恵まれた当園の特徴を活かし「自然」をテーマとして設定しました。

テーマ設定理由

子どもたちは、日々の園庭遊びや散歩の中で、自然に触れ合うことを楽しんでいきます。自然の中にある色・光・感触・音・匂い・遊びの6つの視点に沿って探求を深めていくことで、一人一人の気づきや発見を大切にしながら、自然への興味・関心をさらに広げていきたいと考え、テーマを設定しました。

活動スケジュール

第1回	6月3日(火)	5歳児実践活動	「草花いろいろあそび」
第2回	7月10日(木)	3歳児実践活動	「草花と水あそび」
第3回	10月29日(水)	4歳児実践活動	「小枝あそび光あそび」
第4回	12月11日(木)	2歳児実践活動	「森のケーキ」
第5回	1月15日(木)	0・1歳児実践活動	「光あそび」

活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【素材や道具】草花、木の実、木の葉などの自然物、黒いシート、丸シール、水槽、透明カップ、大小ペットボトル、スポイト、すり鉢、ロート、透明ビニールシート、さまざまな大きさのビニール袋、ボンド、カラーセロファン、白布、カラーポリ袋で作ったカラフルシート、導入用絵本

【環境の設定】

戸外用の制作ワゴンやテーブルを活用し、子どもたちが素材や道具を自ら選び、じっくりと試して遊べる環境を設定しました。

探究活動の実践 活動の内容

【5歳児】

- ・黒いシートの上に置かれた葉や花を見て自然物の色や形の違いに注目しながら観察し、それぞれが興味を持った葉や花を選択する。
- ・選んだ葉や花を活用し、友達と関わりながら「葉っぱじゃんけん」「葉っぱのタペストリー作り」「草花クレヨン」などの活動へと発展させる。

【4歳児】

- ・黒いシートの上に並んだ小枝から「かっこいい枝」「悲しい枝」「自分のお気に入りの枝」などと自分で形や大きさを感じながら枝を選ぶ。
- ・小枝同士をモールで結び三角形の形を作り、カラーセロファンを貼り付けて小枝のアート制作へと展開する。



【3歳児】

- ・水槽の水を用いて、さまざまな水の音や動きを体験する活動を行う。
- ・水・葉・花を自由に選び、複数の容器やすり鉢、ロートなどの道具を使って、自由に試しながら色水作りをする。

【2歳児】

- ・事前の散歩で拾い集めた木の実や草の実、木の葉に加え、準備した木の輪切りや角切りをビュッフェスタイルで自由に選ぶ。
- ・自分で選んだ材料と紙粘土を使い、木の実などを埋め込みながらケーキの飾りつけを行う。

【0,1歳児】

- ・カラーセロファンを通して色の世界をのぞいたり、透明容器に入れたカラーセロファンに光を当てたり、カラフルシートで作ったトンネルをくぐったりするなど、光と色の変化を体験する活動を行う。

活動中の子供の声、子供同士や保育者との関わり

【5歳児】

- ・ 葉っぱを色で分類する遊びの時、最初は一目で「黄色」と分かる葉を選んでいたが、次第にわずかに黄色が混ざっている葉にも気づくようになった。「ここにも色がある。」と言いながら、色の違いを見つけていた。
- ・ 草花をクレヨンにして描く遊びでは、色だけでなく「シソの匂いがする。」など、香りに気づいたことを言葉にしていた。

【4歳児】

- ・ 保育者が「この枝はどうして悲しいの？」と聞いた時に「あそこで折られちゃったからじゃないかな。」「お父さん、お母さんと離れちゃったからじゃない。」などと想像を膨らませている姿が見られた。



【3歳児】

- ・ 自分なりに水の量を調整したり、花や葉を自由に選んだりしながらしながら色水ができることを発見していた。さまざまな色水作りを繰り返す行方中で、「もっとやりたい」という意欲が高まり、集中して遊び込む姿が見られた。

【2歳児】

- ・ 赤い木の実を見て「トマト」と表現した子どもに対して保育者が「森の動物のトマトかもしれないね。」と受け止めると、楽しそうに木の実を選んでケーキ作りをする姿が見られた。

【0,1歳児】

- ・ 保育者の動きをじっと見つめながら壁に映るカラーセロファンの影を見つけると、自分の持っているカラーセロファンを壁にあてて模倣する姿が見られた。
- ・ 容器に水を入れることでカラーセロファンが動くおもしろさに気づいた子どもが、保育者に対して「みじゅうれて」と自分の言葉で要求を伝える姿が見られた。

振り返り 振り返りによって得た先生の気づき

- 葉や花が黒いシートの上に広がっているのを見るだけで、保育者自身もそれらの美しさ感動し、自然の美しさ心癒されていった。子どもの視点から見るともっと違う世界に見えているかもしれないと思うとワクワクしました。
- 4歳児の活動の時に、自分が作った飾りの色と友達の飾りの色が重なって、地面にうつる色が変わったことに気がついている子がいました。大人が教えるのではなく、子どもが自ら気づき、それを言葉にして友達に伝える時の嬉しそう表情から、心が動いた瞬間であることを感じました。
- 自由に選べる環境や大人が行動を制限しすぎない環境が整えられていたことで、子どもたちは自分のやりたいことを自ら選び、のびのびと試して遊ぶ姿が見られました。また、活動中に大人の言葉かけが少なかったことも、子どもたちの主体性を引き出す要因になっていたと感じます。
- 活動全体を通して、子どもたちが何度も試しながら自ら気づいていく場面が多く見られました。
- 子どもたちの豊かな発想力を尊重し、その思いや表現を丁寧に受け止めていくことの重要性を、保育者自身が改めて感じる機会となりました。
- すくわくの活動の中で、保育者が今までとらえていた子どもの姿とは違う意外な一面を見つことができたのも大きな気づきでした。その子なりの表現を受け止めていきたいです。

令和7年度とうきょうすくわくプログラム（大久保第一保育園）

